

高崎正風 たかき まさふみ 歌人。天保七年七月、千八百薩摩國生れ、明治四十

五年二月、千八百歿（八三—九二）。講親義、幼名佐太郎、通稱伊勢

・左京・豊磨。號筆名あきこいほりやのあさし、伴華、大豆園、實善堂、

實善主人、實善堂主人、恩波翁、恩波閣、恩波閣主、恩波閣主人、恩

波閣老人、愛散閑實能産、星岡、有芳生、朝顔廬舍、朝顔舍主人、朝

閑實廬舍、櫻洲漁人、櫻洲漁夫、正かぜ、正か晃、田鶴廬舍翁、蓬萊

山莊主人、蓬の舎、蓬舎のあるし、蓬舎主人、藤原朝臣正風、藤原止

風、豊麻呂、阿佐嘉實能産、高崎左太郎、高崎親賢、高壽正風、鶴園

鶴園親義、鶴壽山人等。和歌を八田知紀公學ぶ。幕末國事公奔走。明

治八年大政官出任、侍從番長。二十年男爵、翌年御歌所所長。福密願

問官兼務。明治天皇の歌道節範となり、へ御歌所派を代表する歌

人。北里蘭著『高崎正風先生傳記』（福田義文校正、昭和二十四年八

月、千八百大阪刊）がある。

編著書『理不廬花』全二冊（編、明治九年九月宮内省藏版）、『千草

の花』全六冊（編、明治十二年六月宮内省藏版）、『千歳の葎』（川

田剛共編、明治二十二年十一月、二百東京藏藏版。また千禮記念歌進）、

『天長節歌解』（口授、坂止臣筆記、明治二十四年十一月、二百吉川半

七刊）、梨堂著『はしのわたえ』全二冊（編、明治二十六年二月、千

百百刊）、伊達京城著『竹のひとさし』全二冊（選、鈴木良一編、明

治二十一年十一月、千二百吉川半七刊）、『おちこころ』（編、明治二

十七年十一月、千二百百百刊。高崎正彦戦後追憶記（編集）、中嶋哥子著

『秋のしづく』全二冊（選、明治四十一年二月、千二百二宅龍子編

刊）、『歌とのがたり』（遠山裕子編、明治四十五年五月、千二百東京

社）、『明治の歌仙』（合著・大町五城編、大正二年四月一日大日本
歌道會）、『わがわが集』全三冊（大正十五年十一月十五日中央
歌道會）等。